

■足利氏満 第2代鎌倉公方。関東支配を確立、将軍を狙う野心を起すも、幕府と直結する関東管領上杉氏に阻止された。

あしかがうじみつ

・・・・・・1359＝ 生。父は初代鎌倉公方基氏。母は畠山国清の妹。

細川頼之管領1367＝ 8歳： 父基氏が死去し、2代鎌倉公方となる。

直後に、関東管領上杉憲頭が氏満の名代として上京した際に、武蔵の河越氏・高坂氏等平一揆が反乱、呼応して下野の宇都宮氏も挙兵、高・三浦一族も鎌倉を出奔したが、上杉朝房・憲春は連携して鎮圧。

足利義満将軍1368＝ 9歳： 関東管領上杉憲頭が死去し、上杉能憲が従兄弟朝房とともに継ぐ。新田一族が武蔵上野で挙兵したが、上杉朝宗等が鎮圧。母の求めで、義堂周信が補佐し、以後深く信頼するようになる。

・・・・・・1369＝10歳： 元服して氏満と名乗る。

了俊九州探題1370＝11歳： 上杉朝房の辞任問題あるが、

応安新式・・・・1372＝13歳： 義堂から「貞観政要」を献じられる。

鎌倉五山制定1373＝14歳： 朝房はなお留まっていたと見られる。判始。従五位下左馬頭、

観世父子登場1374＝15歳： 宗派内対立による放火で円覚寺が炎上した際、義堂の注進を受け、

・・・・・・1375＝16歳： 駿河国佐野郷を寄進し、この間も、治国の政要を問うなど、常に義堂の意見を聞きながら成長。

高麗倭寇激化1376＝17歳： 棟別銭徴収し、材木運搬の便宜も図る。上杉能憲が発病し義堂を介して辞職願うも受けなかったが、

高麗倭寇とる1377＝18歳：

室町御所・・・・1378＝19歳： 能憲が死去し、既に活躍の目立っていた上杉憲春が継ぐ。

義満親政始・1379＝20歳： \*京都で管領細川頼之への反感が高まり、宿老らが罷免を要求したのに乗じ、将軍職襲位を策し、三島に兵を進めるも、上杉憲春が自殺してまで諫止し、断念(康暦の政変)。上杉憲方が関東管領を継ぐ。

・・・・・・1380＝21歳： \*従四位下左兵衛督となる。制止を聞かずに、宇都宮基綱を討った小山義政に対して自ら武蔵に出陣して、将軍義満から疑惑の目を向けられ、管領上杉氏の働きで事なきを得るものの、鎌倉府への反抗が京都と結びつく端緒となる。さらに、義堂が義満から建仁寺住持に呼ばれて上洛し、最大のブレーンも失い、

了俊九州支配1381＝22歳： 花押改める。大般若経を開版。鶴岡八幡宮に願文を納めて凶徒退散を祈願、陣中に頼印を呼んで法事、

義満全権掌握1382＝23歳： \*義政討伐が成って鎌倉に帰還。その功で、頼印を雪下新宮別当に還補。隠退の意思表示までするが、

この間、父基氏の菩提を弔うべく、諸寺に寄進するなど含めて、精神安定に努め、

・・・・・・1384＝25歳： 頼印から護身法を受ける。

南禅寺別格・1386＝27歳： \*義政の子若犬丸が再挙し、

・・・・・・1387＝28歳： 城を落とすも奥州田村氏に逃れ、常陸の小田五郎を誘って抵抗、

周信+良基没 1388＝29歳： 義道が京都で死去。義満が牽制のためか富士山見物に。小田五郎の自刃後、若犬丸は再び奥州へ逃れ、

明德の乱・・・・1391＝32歳： 小山氏反乱を抑制するため、義満から鎌倉府の陸奥・出羽両国併管が認められる。

南北朝合一・1392＝33歳： 上杉憲方が病で子憲孝を関東管領名代とし、

義満太政大臣1394＝35歳： 上杉憲方が死去。

義満出家・・・・1395＝36歳：

・・・・・・1396＝37歳： \*ようやく小山氏討伐決着、まさに晩年の一代の事業となって、

倭寇禁圧公約1398＝39歳： 没した。